

合併後の地域連携を活かした持続可能な景観づくり計画と実行プロジェクト

岐阜県恵那市

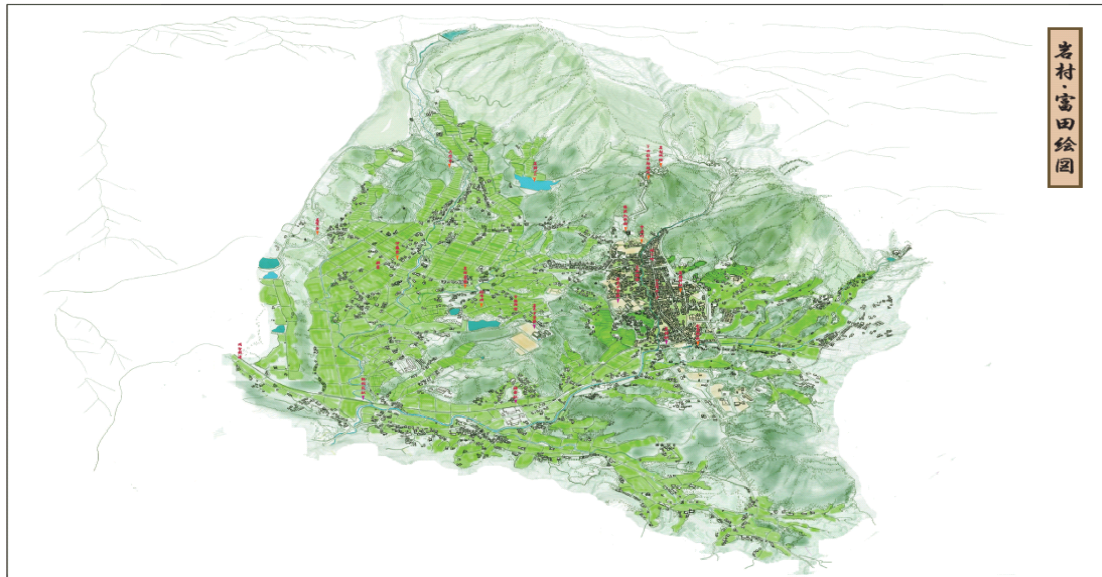
- 地域の望ましい暮らし方を支えるしくみとなる景観計画のあり方の検討
- 専門家支援組織との協働による明知鉄道の沿線地域を対象とした景観WSの開催
- 地域の骨格構造と景観的特色を把握するための地域絵図等の作成
- 明知鉄道の移動風景や駅前広場を活かした景観まちづくり手法の検討

概要	<p>恵那市では、合併により行政上の統合がなされたが、景観的には地形や生業等に即した地区ごとの生活景があり、それらの個性や生活形態等を景観資源として尊重しながら、地域の暮らしを支えるしくみづくりとなる景観計画の策定を目指しているところである。その実現に向けては、合併した恵那市としての住民意識の醸成と、地域それぞれが異なる歴史性や町なみ等を有する旧町村における景観意識の共有と連携を図ることが課題となる。そうしたことから、地区別景観計画策定の先行モデルとして、明知鉄道を軸とした沿線地域と沿線景観に重点をおいた景観検討手法の試行と視覚化資料の作成を目的とした取組みを行っている。</p>
実施内容	<p>① 恵那市と、早稲田大学、日本大学、岐阜大学、京都大学の各研究室との連携を図り、景観計画策定に向けたアドバイスをいただくとともに、各大学がそれぞれ1地区を担当して、地域住民と協働による地域景観に対する検討をWS形式により進めた。これらの成果は、その都度、ニュースレターとして発信した。</p> <p>② 景観WSでは、車による移動が主流であるなかで、あえて“まち歩き”にこだわることで、生活的視点による地区景観の魅力や視点場等の要素を抽出した。単位面積が広い地区においては“地図上まち歩き”を実施し、主要な要素の抽出と実態の把握を行った。</p> <p>③ 景観WSによって得られた地域住民の風景観や視線方向を踏まえて、3D画像等による検証を重ね、各地区ごとの地形下図を作成し、これを基にして、地区の特性や大切な風景といった主要要素をデフォルメしながら、地域イメージをよく表現する絵図の作成を試みた。</p> <p>④ 地域絵図の作成方法を議論するなかで、絵図は単に地域のイメージを伝えるだけでなく、地域の将来ビジョン、戦略的景観まちづくりの議論をするために有効な表現媒体であることが明らかとなった。</p> <p>⑤ “まち歩き”や景観資源発掘の作業で地域住民と集めた写真を、「点景」「建物」「もてなし」「外構」「地形へのおさまり」などといったキーワードにより分類し、地域ごとにスケールの異なる風景カタログの作成方向を明らかにした。</p> <p>⑥ 交通計画の専門家を交えて明知鉄道沿線を考えるWSを開催し、明知鉄道というローカル鉄道の有する価値を多面的に明らかにした。またそれを活かした地域まちづくりのための社会実験のアイデアをWS参加者とともに検討し、具体的には「乗る・待つ・歩くをもっと楽しくするおもてなしプロジェクト」に対する共感を得た。</p> <p>⑦ 明知鉄道の駅を考えるWS－駅前広場デザイン会議を開催し、デザイナーによる模型等を用いた駅前広場のデザイン提案と地域住民との意見交換を行った。これによって駅および駅前広場に対して、個別・単独に考えるのではなく、まちとの連携、沿線での連携、使い方の工夫について、新たな認識が得られた。</p>
取組の成果	<p>本取組みの成果としては、まず、“景観”を切り口に地域の将来像について幅広い観点からの議論を行うWSの方法を提示することができた。各回のWSのプログラムや進行方法、および議論に用いる視覚的表現媒体としての絵図の可能性を示すことができた。</p> <p>次いで、地域をつなぐローカル鉄道に対して、交通機関ではなく、公共交流機関としてとらえること、それによって地域まちづくり上の多様な価値を示すことができた。その価値を高めるために、おもてなしと居場所というキーワードでの景観まちづくりのアイデアを導くことができた。</p>
今後の課題	<p>相互を意識しながらも基本的には個別に進められた地域ごとの景観まちづくりの目標や方向性を相互に確認し、地域間の具体的な連携イメージをより明確にすることが次の課題である。絵図の作成については、住民から遠方のスカイラインの記述の要望などがあるため、更なる改良が必要である。明知鉄道に関しては、今年度の提案を実験的取組みとして始動させることが必要であり、また具体的な駅や駅前広場などの空間デザイン整備のプロジェクトへの反映が課題である。</p>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本取組み対象の地区以外における景観検討の取組み展開 ◆ 教育プログラムとの連携による景観計画のビジョンを次世代に継承する方策の確立 ◆ 景観計画策定以前からの、地域住民・庁内職員による意識と情報の共有 ◆ 開発等案件に対するチェック体制および指導体制の構築 ◆ 今後、順次策定していく予定の地域別景観計画と上位計画(国・県事業)との連携 ◆ 明知鉄道に対する「公共交流インフラ」としての位置づけと施策の導入
市町村名	岐阜県恵那市
部局／担当者名	建設部都市整備課／可知 昌洋
連絡先	TEL : 0573-26-2111 (内線234)
リンク	http://www.city.ena.lg.jp/

(写真又は図)



景観まちづくりワークショップの広報用ポスター



作成した地域絵図の例(岩村地域)



作成した絵図の例(明智地域)



明知鉄道の風景を考えるWS(具体的活動提案の議論の様子)



明知鉄道デザイン会議(デザイン提案模型を囲んでの議論)